



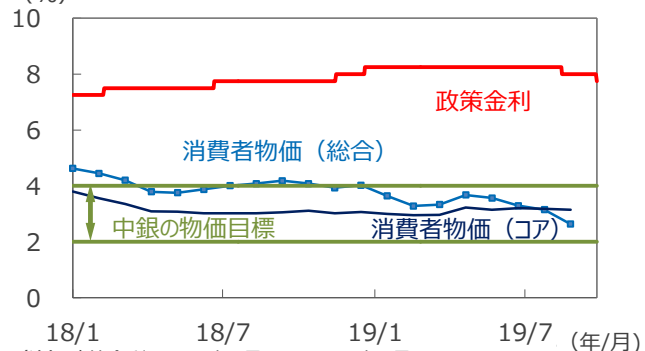
今日のトピック メキシコ連続利下げとメキシコペソ

メキシコペソは利下げ織り込みやや弱い動き

ポイント1 2会合連続で利下げ 政策金利は7.75%へ

- 9月26日、メキシコ銀行（中央銀行）は0.25%の利下げを実施し、政策金利を7.75%としました。利下げは約5年ぶりとなった8月の利下げに続き2回目となりました。18日に米国が2会合連続となる利下げを決定しており、これに追従した格好となりました。
- 声明文では、国内経済が低迷し不確実性が増す中、インフレ率の低下や需給の緩み、国内外の金利動向を考慮したと述べています。
- 今後の金融政策については、低迷する国内経済を支える必要があることに加え、メキシコ銀行はこれまで米国の金融政策を踏まえて政策金利を決定してきたことから、米国の金融緩和の状況次第では、更なる利下げを行うことが見込まれます。

【政策金利と消費者物価】



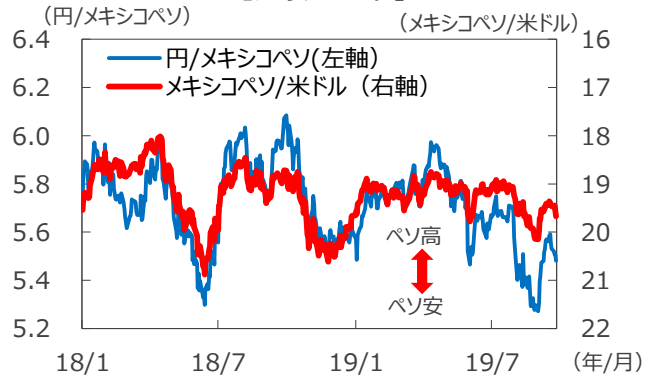
(注) 政策金利は2018年1月1日～2019年9月26日。
消費者物価は前年同月比、2018年1月～2019年8月。

(出所) Bloomberg L.P.、メキシコ中央銀行のデータを基に
三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 景気は足踏み状態

- メキシコの4-6月期実質GDP成長率は前期比0%となり、マイナス成長となった1-3月期（同▲0.3%）から停滞した状態が続きました。中銀は声明で、経済活動は7月まで停滞していたが、年末にかけては若干回復すると述べていますが、経済の見通しに対するリスクは依然として下向きです。

【メキシコペソ】



(注1) データは2018年1月2日～2019年9月26日。

(注2) メキシコペソ/米ドルは逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 メキシコペソは高金利が下支えも上値の重い展開か

- メキシコ経済の停滞が続く中、メキシコペソも当面上値の重い展開が見込まれます。米中対立や世界的な景気減速懸念などからリスク回避的な動きが強まれば、メキシコペソの上値を抑制することが見込まれます。また債務超過に陥っている国営石油会社への財政支援が同国の信用リスクの高まりにつながる可能性が警戒されていることはメキシコペソの下押し圧力となりそうです。一方、世界的な金融緩和環境は、高金利通貨であるメキシコペソを下支えする要因として期待されます。

ここも 2019年9月26日 メキシコマーケットウィークリー

チェック! 2019年9月19日 FRBは市場予想通り0.25%の追加利下げを実施（2019年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。